



現状と課題

埼玉県学力・学習状況調査【平均正答率】令和5・6年度

	令和5年度				令和6年度			
	国語		算数		国語		算数	
4年	県		県		県		県	
	本校		本校		本校		本校	
5年	県		県		県	51.9	県	62.6
	本校		本校		本校	44.6	本校	57.9
6年	県	63.6	県	63.9	県	56.9	県	53.4
	本校	63.7	本校	61.5	本校	55	本校	56.5

- 対象児童 ①基礎学力の定着に時間がかかる。
②前学年までの学習内容が定着していない。
- 学年全体 ①基礎学力の定着に時間がかかる。
②学力の二極化が起き始めている。

現状と課題をもとにした仮説

対象児童に係る仮説

- ①少人数や個別学習の時間を確保することで基礎学力が向上するだろう。
- ②基礎的な計算問題を定期的に解く時間をつくることで基礎基本が定着するだろう。

学年全体に係る仮説

- ①学んだことを活用する視点を与え続けることで、既習事項が定着していくだろう。
- ②自分の学習進度にあった場で学ぶことで、主体的な学びに繋がるだろう。

事業実施報告

- 【通年】少人数指導
習熟度別指導
チャレンジタイム
- 6月13日 学力向上研修
 - 8～10月 各種調査の分析
 - 10月10日 県学調分析
 - 11月25日 スクラム訪問
授業研究会
 - 2月12日 研究のまとめ



仮説をもとにした取組内容

取組①「学習形態の工夫」

児童の学習進度に対応した学習形態で学ぶことで、学習意欲を向上させる。また、基礎基本を定着させる。

- ・少人数指導
児童のつまずきを把握し、きめ細かい指導
- ・TT指導
教師の役割分担を明確にした指導
- ・習熟度別指導
プレテストの結果を反映した習熟度別の指導



取組②「C小授業スタンダードを活用した授業づくり」

めあて→見通し→対話・協働→まとめ→振り返り
教科の特性による違いはあるが、基本的な授業の流れを全教科で揃えることで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。



取組③「ICTの効果的な活用」

既習事項の確認や見通しをもたせる場面等で、ICT機器を有効活用し、短い時間でわかりやすい説明を行う。個別支援の時間を作り出す。

取組④「掲示物の工夫」

- ・必要な情報をすぐに確認
- ・いつでも既習事項の振り返り



取組⑤「チャレンジタイム」「隙間時間の有効活用」

- ・C小寺子屋
個々の学習状況に応じた学習の場や学習の機会を設定し、意欲向上を図る。
- ・訪問算数
スクラム担当と担任が連携し、隙間時間に個別指導を実施し、基礎学力の定着を図る。

成果

成果①「学習形態の工夫」

- ・自分のペースで学ぶことができ、児童が伸び伸びと学習に取り組んでいた。
- ・少人数にすることで、児童の発言回数が増えた。
- ・単元ごとに学習形態を工夫することで、単元末テストの結果が伸びた。

成果③「ICTの効果的な活用」

- ・視覚的な支援は全ての児童に効果があった。
- ・ICTの活用により、準備物の削減に繋がったり、説明がしやすくなったりした。
- ・個々の考えを共有するのに役立った。



成果④「掲示物の工夫」

- ・既習事項の振り返りがすぐに行えた。
- ・児童が必要に応じて確認することができた。



<埼玉県学力・学習状況調査>数値（平均）単位（%）

		5年生		6年生	
		国語	算数	国語	算数
県	伸び率	80.4	69.6	66.3	68.3
市	伸び率	80.7	69.6	67.4	68.8
本校	伸び率	80	81.2 ◎	78.6 ◎	73.8 ○

成果②「C小授業スタンダードを活用した授業づくり」

- ・授業の流れが確立されていることで、児童が進んで授業準備や学習に臨むことができた。主体的な取組が生まれることで、児童を認めたり、褒めたりする機会が増えた。
- ・話し合い活動の積み重ねにより、児童同士の学び合いが自然にできるようになった。
- ・児童の考えを全体で共有することで、お互いを認め合い、学習意欲の向上につながった。

成果⑤「チャレンジタイム」「隙間時間の有効活用」

- ・チャレンジタイムでは、短い時間で集中して取り組むことで、基礎基本の定着を図ることができた。
- ・C小寺子屋の取組では、担任と連携し、支援が必要な児童を重点的にサポートできた。
- ・訪問算数の実施で、復習が必要な児童を丁寧に支援した。児童が、自信をもって単元テストに取り組むことができた。

課題及び今後に向けて



- ・学年や児童の実態に応じた学習形態の見直しを図っていく。
- ・話し合い活動の時間調整、内容の精選を行う。
- ・学力調査の結果を分析し、ポイントを絞って指導する。
- ・2年間の実践を振り返り、効果的な取組を継続していけるよう教育課程の見直しを行う。

